

---

# けいおん！あったかい日常

SIN

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

けいおん！あつたかい日常

### 【Nコード】

N6241Z

### 【作者名】

SIN

### 【あらすじ】

中学時代にいじめにあい心に深い傷を負った・・・地元の高校には行きたくなかった為悩んでいたところ、母親に勧められたのが隣の桜ヶ丘高校。受験を受け合格し入学したまでは良かったが・・・この高校は実は女子高で、俺の年から共学になり今年の男子生徒は俺一人と言った・・・「なんじゃそりゃあああああああ！？」。だけど俺はここでかけがないものを手に入れるのだった。

## プロローグ(前書き)

小説書き始めました、もの凄く素人で更新も不定期ですがあたたかく見守っていて下さい。

## プロローグ

春は出会いの季節……

訪れるのは友情なのか……

それとも恋なのか……

凄く不安だけど

それと同時に少しだけ期待してしまう自分がある

過去に嫌なこと、怖いこと、傷ついたこと……

泣きたくて逃げ出してしまういたい思いもあったけど……

ここで俺は出会えたんだ

本当の友達に……

大好きな人に……

これから始まる物語は

この俺野上慎司と

この学校で出会った少女達の

いつもの日常だけどもあつたかい物語

けいおん！あつたかい日常

L I V E s t a r t ! !

## プロローグ（後書き）

これから頑張ります

LIVE 1 高校入学！だがしかし・・・（前書き）

ようやく本編スタートです、ではお楽しみください。

LIVE 1 高校入学！だがしかし・・・

ピピピッ ピピピッ

目覚まし時計の音を聴きながら眠い目を擦り  
俺は目を覚ました・・・

「ふぁ・・・ねむ・・・」

ぐぐつと背伸びをしてほつと一息。そしてハンガー  
に掛けてある制服に手を伸ばし着替えを始める。

「慎司〜降りてらっしゅ〜い！朝あさはん出来てるわよ〜！」

「今いくよ、母さん」

一階から母さんの声が聞こえると俺はすぐに返事を返し  
下に降りた。

「おはよ、母さん」

「慎司〜お・・・は・・・あ〜っっ?」

そう言つて母さんは「じぞとばかりにぎゅ〜と抱きしめて来る。」

「母さん・・・いい加減抱きつくの止めない？流石にこの年じゃ恥ずかしいよ・・・／＼／」

「もう〜良いじゃない、スキンシップよ！スキンシップ！」

これは俺の母さんこと野上 紫《のがみ ゆかり》の日課である。朝の挨拶の時と家に帰つて来た時に必ずハグをする、まあ嫌いじゃないんだけどね。

「さあ、時間も時間だし早く朝ご飯食べちゃいなさいね」

「うん、わかった」

そう言つて椅子に座つて食べ始める、うん・・・今日の味噌汁もいい味だ。

「そつえば桃姉は？」

「桃音はもう学校にいったわよ、友達と課題をする約束があるんですって」

「ふうん、そつか・・・」

桃姉。本名は野上 桃音《のがみ ももね》俺の姉さんだ。凄く優しくて勉強も運動もなんでもござれの完璧超人、俺とはまったく対象外・・・

「慎司・・・」

そんな事を思っていると母さんが心配そうな顔をして俺に話しかけてくる。

「辛い事とか苦しい事があつたら絶対に言いなさい、必ずあなたの力になるから・・・」

「うん・・・ありがとう」

いかんいかん、高校デビューだというのに暗い雰囲気になつてしまった。母さんにお礼を言つと残りのおかずをかつこみ鞆を持って立ち上がる。

「じゃあ母さん、行ってきます」

「はい、行ってらっしゃい」

玄関前で他愛のない会話をしてドアを開け学校へと向かった。

自己紹介が遅れたけど俺の名前は野上 慎司《のがみ しんじ》今年から私立桜ヶ丘高校に

入学した、なんで地元の高校じゃなく隣町の桜ヶ丘高校を受験したかというところ……早い話地元だと中学時代の連中がいるからである。

実は俺は中学時代にイジメを受けていた、最初の頃はなんともなかったけどだんだんエスカレートしてきて中二の前半は不登校だった。中三の後半からまた学校に行きはしたけどイジメが無くなることはなく……

「なんでお前が来てるんだよクズ！」

「なんだよお前？まだ死んでなかったのかよ？ギャハハハ！」

こんな始末である。ちなみに先生に相談しても何にもしてくれないし止めもしない、何やってるんだろうね？

そんなこんなで受験シーズンが来て悩んでいたところ母さんが教えてくれたのが桜ヶ丘高校。隣町なので地元の連中が来ることもあまりない、

ぶっちゃけ地元から離れられればどこでも良かったので無我夢中でその

高校を受験した。だけどそれがのちにとんでもないことになるうちは……

「さてと、早く電車に乗らないとな」

駅につき電車に乗るためホームに急いでいると・・・

「キャッ!?!」

「おわっ!?!」

誰かとぶつかってしまった、そのせいで荷物の中身がばらけてしま  
う。

「ごめん!俺の不注意で・・・」

「いいんですよ、私も前を見ていませんでしたから」

そう言うと女の子なりにっこりとほほ笑みそう言ってくれた。  
ていつかこの子・・・かわええ・・・

ハッ・・・!俺は何を・・・

「では私はこれで・・・」



そして着きました！桜ヶ丘高校！やれやれだ・・・

「まずは自分のクラスはどこか確認を・・・なんだあれ？」

クラス表の確認をしようと歩いていたら、一人の人影を目撃する。

なんかうずくまっているように見えるけど・・・

「話しかけなくても・・・いいよな・・・」

人に話しかける勇気がないとっておこう、イジメの事もあって人話するのが少し苦手になってしまったからだ。

けどもし体調不良だったりしたら・・・あゝっもう！きりがいなな！

「あの・・・どうかしたの？」

俺は意を決して話しかけることにした。小さいころから困っている人が

ほっとけなくてよくお人よしって言われてたっけ・・・

「んっ？君は誰？」

その人は女の子だった、声からして体調不良とかじゃなさそうだけど・・・

「いやさ、なんかうずくまってるようなきがしたから気になって・  
・  
ところでさ、そんなところで何してるの？」

「えっとね、テントウムシをみていたの！」

「へっ？テントウムシ？」

「うん！すっごく可愛いよね〜！」

なんか変わった子だなというのが第一印象、今時こんな子がいるのかと

正直驚いた。

「あっ！そうだ、自己紹介！私の名前は平沢 唯《ひらさわ ゆい》  
《よろしくね！》」

「えっ・・・ああ・・・よろしく」

なんか結構マイペースな子だな・・・この子のペースに全然ついていけない・・・

「ねえねえ！君の名前も教えて！」

「えっ！？俺！？なんで！？」

「だってせつかく知り合いになれたんだし、何より今日から私達同じ学校の」

仲間でしょ！」

「仲間……」

久しく忘れていた言葉……もう言われる事はないと思っていたのに……  
目の前にいる女の子はなんのためらいもなく言葉を返してくれた。

「あれ？どうかしたの？ハッ！？私まさか変な事言った！？」

「あっ！いや、そうじゃないよ！」

なんだかうれいいな……なんて心の中で思っていたり……

「えっと自己紹介がまだだったよな、俺の名前は野上 慎司だ、よろしくな」

「野上 慎司君か、うーんそれじゃ……あっ！しん君だね！」

「えっ！？なぜにしん君！？」

「え〜つとね、しん君だからだよ！」

「いや余計意味が解らないよ！？平沢さん！？」

平沢さんは初対面の人にあだ名を付けて話す子なのか！？？だとしたら結構

変わった性格だな・・・そんな事を思っていると

「しん君、私の事は唯で良いよ」

この子は何を言ってやがりますかああああああ！？

「なんで初対面の俺に呼び捨てで呼ばせる！？？て言うかもっと自分を大切に

しなさい！」

「オーバーだよしん君」

「しかしだな・・・はあ・・・分かったよ、ゆっ・・・唯」

結局は唯の言葉におれちまった・・・（・・）

「唯、何処なの～！」

「んっ？誰だ？」

「あっ和ちゃんだ、こっちだよ～！」

「唯、やっと見つけたわ、一人で勝手にふらふらしないの！」

「えへへ～ごめ～ん」

「もう・・・あら？この人は？」

「さつき友達になったしん君だよ！」

「しん君・・・？」

「ああ、俺の名前は野上 慎司、よろしく」

「なるほど、だからしん君なのね・・・ごめんなさい、唯には悪気はないの」

「いいよ、別に嫌じゃないし」

「そう言ってくれると助かるわ、私の名前は真鍋 和《まなべ》のどか《よろしくね》」

「うん、よろしく」

そう挨拶を交わしていたら唯が

「ほら、早くクラス表見に行こうよ」

「ってこら！唯！待ちなさい！」

「早っ！？てかもうそんなところまで！？？」

もうクラス表が張り出されている場所まで移動していた・・・  
どんだけマイペースなんだよ・・・

場所は変わって教室、運良く唯や真鍋さんと一緒のクラスになることが

出来た。

それは良かったが・・・なんだろう、何だか凄く違和感がある・・・

「はいつたばかりでまだ緊張してるんじゃない？」

「そんなもんかな・・・」

「しん君、リラックスリラックス」

二人の優しさが身に染みるぜ・・・そんな事を考えている時に校内放送が流れた

「えゝ新入生の野上慎司君、新入生の野上慎司君、至急職員室まで来て下さい」

へっ！？俺！？

「なんで野上君が？」

「しん君何かしたの？」

「そんな訳ないだろ・・・でも何か分からないからちょっと行って来る」

「「いつてらっしやい」「」

二人に見送られ俺は教室を後にした。

（職員室）

「失礼します・・・」

「おお、来たか」

そう言って出迎えてくれたのは長年教師をしてきたような男の先生、他にも

校長先生や教頭先生らしき人もいる。

「あの、先生・・・俺何か問題を起こしたんでしょうか・・・」





なんじゃそりゃああああああああああああああああああああ  
ああああああああ

ああああああああああああああああああ!!!???」

・  
・  
勢い余って叫んでしまった・・・俺の高校生活は前途多難の様です・

L I V E 1 高校入学！だがしかし・・・（後書き）

なぜ唯達が主人公を見て驚かなかったのか、その理由は唯達の学校にはちゃんと届いていたからです、こんな感じで進めていきます。  
では！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6241z/>

---

けいおん！あったかい日常

2011年12月23日01時48分発行